

「学びの变革」指導事例

＜基本情報＞

- ◇教育課程 作業学習（紙漉き）
- ◇学年 中学部Bグループ
第1学年1名，第2学年2名，第3学年3名（計6名）
- ◇単元名 「紙製品の製作」
- ◇目指す姿 『気付き，考える姿』
- ◇単元の目標
 - 働くことの喜びを知り，進んで仕事に参加することができる。
 - 物を作ることの喜びを味わい，仕事への自信を持つことができる。
 - 分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
 - 他の人を意識し，協力して作業する態度を身に付ける。
- ◇本時の目標
 - ・ 自分の分担された仕事を最後までやり遂げることができる。
- ◇生徒の実態

3学年の縦割りの集団。本グループの生徒は，知的障害と自閉症若しくはその傾向を併せ有する。決まったパターンの学習が得意だが，見通しを持って作業に区切りを付けることが難しい。主に指導する生徒Aは，初期は作業室に入ることが困難で，大声で泣いていたが，最近は他の生徒と共に作業机に付き，牛乳パックを「ちぎる」作業ができるようになってきている。



＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価		
	A		全体
3 作業 ・決められた時間いっぱい作業する。 ・適切な言葉で報告したり，支援を求めたりする。	椅子に座って，ちぎる作業をすることができる。 ○作業の手順を指導し，ちぎりやすい状態のパックを準備する。 ○生徒の自主的な動きを待つように言葉掛けを少なくする。離席する場合は，作業に戻るよう言葉掛けし，自主的に戻るのを待つ。(T1) ☆椅子に座って，ちぎる作業をすることができたか。		○肯定的な言葉掛けで作業意欲を高める。(T1～T3) ○言葉や態度が適切でない場合は，気付くような言葉掛けしたり見本を示したりして修正する。(T1～T3)

作業に集中しにくい実態の生徒に，できるだけ分かりやすい工程でやりやすい原料を準備し，一定の作業時間取り組むことができる作業環境を準備しています。また，自分のやるべき作業量が分かるよう，個別のボウルにその時間ちぎる量のパックを準備し，作業終了の見通しを持たせるようにしていました。

作業のしやすさを考えた配慮や見通しを持たせる工夫を行っている。一定時間座って作業に集中する様子もあったが，離席や寝転ぶ場面も数回あった。作業量が分かる支援として，個別のボウルを用意していたが，牛乳パックが重なっており，残量の見通しが立ちにくい。今日ちぎるべきパックの枚数が分かり，作業を進める中で残りが視覚的によりわかるよう作業板に並べて提示してみる工夫を行ってみるとよい。今は作業が形となってきた生徒であるが，ちぎったパックの大きさが適正か自ら判断させるなど，「気付かせる」工夫も今後取り入れる必要がある。